

令和6年度 調布市立調和小学校 授業改善推進プラン

学校の教育目標

豊かな心のハーモニーを奏でる学校

すべての児童が社会の変化に主体的に関わる中で、自他の幸せを希求し、自己実現を果たすことができる基盤をはぐくむことができるよう、教育活動を推進していく。

- 1 心もからだも健康な子(心とからだのハーモニー)
- 2 よく考え、学びあう子(学びのハーモニー)
- 3 力をあわせてやりぬく子(協力・協働のハーモニー)

目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像

(1) 児童が学びたいと思う調和小 (2) 保護者が通わせたいと思う調和小 (3) 教職員が勤めたいと思う調和小 (4) 地域が誇りに思う調和小

ビジョンの設定理由
(本校の現状と課題)

○児童が学びたいと思う学校

児童が学びたいと思う学校は、個々の児童が「楽しい」「分かる」「もっとやりたい、知りたい」と感じる授業が実践されていて、児童が主体的に学習活動をすすめられる学校である。

課題

学力の二極化

対応

- ・個の実態を正確に把握し、どの子も現時点より「伸びる指導」を行うことで、学びに対する充実感を児童が得て、さらに学ぶ意欲を高める。
- ・児童自身の「こうしたい」という思いや意図を汲んで、学年の発達段階に合わせた学びの場を保証し、一人一人の主体性を伸ばしていく。一人一台タブレット端末の活用や人材・地域教材の活用を積極的に取り入れ、自己肯定感、自尊感情の向上を図る。
- ・道徳の時間をかなめとした全活動における心の教育の展開で、児童同士の心が安定して学びあえる学年学級を育成する。

○保護者が通わせたいと思う学校

安全で児童一人一人が大切にされ、確かな学力を付けてくれる学校である。

・教科学習をはじめ特別活動、道徳等様々な活動を通じて集団の中で思考・判断し、主体的に行動することを通して、児童が心身ともによりよく成長できる指導を展開する。

○教職員が勤めたいと思う調和小

教職員が誇りと自信をもって教育活動に取り組み、自ら課題を見だし、互いに切磋琢磨し合いながら解決への努力を続けられる学校である。

○地域が誇りに思う調和小

地域と協働し、人材を生かし、児童が地域で活躍する学校である。コミュニティスクールに向け、保護者・地域の方とともに進む学校を目指す。

教科	目指す学校像(ビジョン)を基にした 育成したい資質・能力	資質・能力を育成するための具体的取組
国語	・日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができる。 ・日常生活における人との関わりの中で自分の思いや経験、考え等を伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。 ・言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、話したり書いたり読んだりすることが児童一人一人の言語能力を向上させることを児童自身が自覚することで、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。	【全学年】読書活動の充実を図るために、朝のモジュールに「読書」を設け、全校一斉読書と保護者による読み聞かせ等を実施する。 【1・2年】言語活動の充実を図り、話の要点をとらえて感想をもつことができるように、全体・グループ・ペアなど様々な学習形態を取り入れた指導を行う。 【3・4年】言語能力を向上させるために、教科書の本文から、事柄や人物などの様子や特徴を表す語句や人物などの行動や気持ちを表す語句に注目しながら読み取る力を付ける。並行読書を取り入れ、読み取る力や話す力の育成を目指す。さらに、ペアでの対話や文章を書くときに活用できるように、辞書を活用して語彙を増やしていく。 【5・6年】叙述に沿って重要な語句をとらえたり、要点をまとめたりの活動を重視する。書いて伝える活動を通して、自分の思考や思いをまとめたり、書き表し方を工夫したりする力を付ける。日常生活から話題を見付けたり、伝えたいことを明確にしたりして、文章全体の構成をとらえ、要旨を把握する。敬語、慣用句などの基礎的な学習を重視し、日常の中でも語彙を増やして使えるようにする。
社会	・地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解する。 ・様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能を身に付ける。 ・社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力、社会に見られる課題を把握して、その理解に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。 ・社会的事象について、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養う。 ・多角的な思考や理解を通して涵養される地域社会に対する誇りと愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚を養う。	【3年】地域や自分の住んでいる市の様子について、自分で予想し、調査活動や具体的資料を活用し、必要な情報を調べてまとめ、人々の生活との関連を踏まえて、理解できるようにする。 【4年】資料の読み取り方を丁寧に教え、読み取る練習を重ねていく。ペアやグループで読み取ったことを共有することで、読み取りを確実にし、自分の考えをまとめられるようにする。 【5年】児童の疑問を基に学習問題を立て、児童が主体的に問題解決できるようにする。また、問題解決するための有効的な資料を提示し、児童が資料を読み取る時間を確保するとともに、グループで共有したり、話し合ったりするなど協働的な学びを行い、児童の資質・能力を育成する。 【6年】児童の疑問から学習問題や学習計画を立て、主体的に問題解決できるようにする。教科書や資料集にある知識と社会情勢を関連付けた資料を提示したり、調べさせたり、ペアやグループで共有したりして多角的な思考を働かせられるようにする。
算数	・数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質等を理解するとともに、日常の事象を数理的に処理する技能を身に付ける。 ・日常の事象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力を養う。 ・数学的活動の楽しさや数学のよさに気付く、学習を振り返ってよりよく問題解決しようとする態度、算数で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。	【1・2年】半具体物などを用いて問題場面を視覚的に示し、イメージしやすくする。問題場面の言葉に着目したり、図に表現したり、半具体物を操作したりすることを通して、数量や数量関係、図形の性質に着目して考え、的確に表現できるようにする。 【3・4年】既習事項と本時の問題との違いを確認し、新たな課題を立てる児童を価値付け、主体的に問題を見付けられる力を高める。図や式、表、グラフなどそれぞれの表現のよさに気付かせ、目的に応じて適切に活用できるようにする。 【5・6年】考え方や意味に重点を置き、常に既習を基にして考えることができるよう、既習との関連性について振り返る時間を設ける。問題場面に応じて、必要な情報を見だし、図、式、表、グラフ、言葉などを適切に用いながら処理・説明をしたり、それぞれの表現方法を関連付けながら考えたりすることができるよう、複数の考え方を比較検討させ、それらを活用するよさに気付かせる。

理科	・自然の事物・現象についての理解を図り、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 ・主体的に問題を見出し、観察、実験などを行い、問題解決の力を養う。 ・自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度を養う。	【3年】身近に見られる自然の事物・現象から問題を見だし、観察の視点を示し、差異点や共通点を比較しながら調べて問題を解決できるようにする。 【4年】自然の事物・現象と既習事項や生活経験を関係付けて予想を考えるようにする。また、グループで話し合い、予想を立てる時間を確保する。 【5年】実験や観察をしていく上で、適切な方法を計画できるよう、方向性を明示する。また、条件制御の考え方ができるように、実験方法を話し合って決定する。 【6年】結果を基に、論理的思考に基づいた考察をかけるよう、抑えるべきポイントを明示する。自然の事物・現象を複数の観察結果や互いの予想から考えるようにする。
生活	・活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴のよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。 ・身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現できるようにする。 ・身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしようとする態度を養う。	【1年】具体的な活動や体験を多く取り入れ、自分なりの気付きや疑問をもてるようにする。子供たちが気付いたことや興味をもったこと、分かったことや考えたことを発表する機会を多く設ける。 【2年】学校や家庭、地域の生活に関わることを通して自分自身と身近な人々、自然との関わりについて考えることができるようにする
音楽	・曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽を表現するために必要な技能を身に付けるようにする。 ・音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする。 ・音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。	【1年】リズム楽器を用いたり、曲に合わせて身体を動かしたりすることで、音楽と楽しく関われるようにする。 【2年】友達と合わせて楽器を演奏することで音楽表現を工夫できるようにする。リズム打ちを通して拍や拍子を感じられるようにする。 【3年】副次的な旋律を楽器で演奏するなどして、各声部の楽器の音や全体の響き、伴奏を聴いて音を合わせて演奏できるようにする。音楽を聴いて曲の特徴や感じたことを言葉で表現する力をばす。 【4年】副次的な旋律を聴き、互いの歌声を聴いて歌えるようにする。音楽の要素を提示することで、音楽の特徴と自己の感性を結び付けて表現や鑑賞することができるようにする。 【5年】学級や学年での合唱・合奏を行い、音楽に対する知識や技能をのばすとともに、音楽を演奏することのよさや大切さについて活動を通して考えられるようにする。 【6年】日本や世界の音楽に親しむことで音楽文化を知り、生活や社会の中の音や音楽に関心をもてるようにする。学校行事や総合的な学習の時間と連携し、音楽に思いをのせて表現することで情操を培う。
図画工作	・形や色などを捉える造形的視点について、自分の感覚や行為を通して理解し、材料や用具を使い、表し方を工夫して創造的につくることができるようになる。 ・創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を広げたり深めたりできるようにする。 ・つくりだす喜びを味わい、感性を育み、よりよく学ぼうとする意欲や、学習の仕方を工夫する態度を養い、豊かな情操を培うようにする。	【1年】表したいことを見付け、形や色、材料の特徴に着目し、そのよさを感じながら表現することを楽しめるようにする。 【2年】形や色、材料の特徴に着目し、創造的に発想や構想をしながら表現することを楽しめるようにする。 【3年】自分の感覚や行為を通して、正しい用具の使い方を学び創造的につくりだしたりできるようにする。 【4年】自分の感覚や行為を通して材料や用具の使い方を工夫し、自分の見方や感じ方を広げられるようにする。 【5年】学習の仕方を工夫し、表し方や自分の見方や感じ方を深められるようにする。 【6年】つくり出す喜びを味わい、学んだことを学校生活に生かすことができるようにする。
家庭	・家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて日常生活に必要な理解を図り、そのための技能を身に付ける。 ・日常生活の中から課題を見つけ、実践的に解決したり、考えたことを表現したりする。 ・家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的態度を養う。	【5・6年】身近な生活の中から課題を見付け、学んだことを実生活に活かしていく学習の流れを大切にしてい。自分の生活を振り返り、友達との交流や学んだことを実生活と結び付け、よりよい生活のために創意工夫することができるようにする。学習したことと日常生活との関連を図り、実践的な学習になるようにする。
体育	・その特性に応じた各種の運動の行い方及び身近な生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付ける。 ・運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し、判断するとともに他者に伝える力を養う。 ・運動に親しむとともに、健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。	【1・2年】教具や場を工夫し、各種の運動遊びを通して、楽しみながら基本的な動きや技能を身に付けることができるようにする。 【3・4年】自分の能力に適した課題をもって運動に取り組めるように、タブレット端末や資料、学習カードの工夫をする。また、技能のポイントを互いに見合い、話し合う場面を設けることで、学び合う環境をつくっていく。 【5・6年】学習の流れやめあて、技能ポイントなどを ICT 機器を有効的に活用して示し、児童同士が学び合えるようにする。学習カードや掲示資料などで学習の振り返りしたり、技能ポイントを振り返ったりすることで次の学習に生かしているようにする。
外国語	・外国語の音声や言語等について、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技を身に付ける。 ・目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりする。 ・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	【5・6年】ALT や担任、友達とのやり取りの中から日常生活に関する単語を習得し、そこで得た知識をもとに実際のコミュニケーションで活用する。簡単な語句や表現を用いて、自分の考えや気持ちを伝えることができる。相手に簡単な質問をしたり、相手からの簡単な質問に答えたりすることができる。簡単な語句や基本的な表現を読んだり、語順を意識しながら書いたりする。世界の文化や日常生活、歴史、伝統文化への関心を高める。
道徳科	・よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため道徳的諸価値について理解できるようにする。 ・自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深められるようにする。 ・道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を養う。	【1・2年】児童の実態に合わせた発問をしたり、道徳的諸価値を一人一人が考えられる時間を十分にとったりする。また、友達の意見にふれる機会をとり、自分の考えを深められるようにする。 【3・4年】児童が「自己と向き合い、多様な感じ方や考え方に接することができるよう協同する場面を設定したり、友達の意見に触れたりする時間を設ける。また、児童の実態に合わせた発問を通して自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えられるようにする。 【5・6年】児童の実態に合わせたワークシートや資料の提示方法を考え、主体的に学習に取り組むことで自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えることを通して自己の生き方についての考えを深められるようにする。ICTを活用し、児童一人一人の思考を可視化し、共有できるようにする。また、多様な価値に関して、自分を見つめる時間を取り、様々な自分との関わりを見つめ直す。
外国語活動	・外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。 ・身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ち等を伝え合う力の素地を養う。 ・外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	【3・4年】教科書や ICT 教材を活用し、単元の題材で使う英語を繰り返し聞く回数を増やす。また、ペア学習等では、身振りや反応を交えながら表現する。学習活動を児童にとって身近な素材を使用したり、必然性のある場面設定をしたりする。ALT との関わりを通して、世界の文化や言語の違いを考える。相手意識や目的意識をもって伝え合う機会を設ける。

